

探究・校務改革 支援補助金 2025

令和6年度補正予算
地域未来人材育成支援民間サービス等利活用促進事業費補助金



探究的な学びの高度化/教職員の校務負担軽減を目指して

効果報告レポート

【事業者名】

瀬戸内サニー株式会社

【サービス名称】

地方発グローバルアントレプレナーシップ教育サービス

【サービスの支援項目】

カテゴリーⅠ 探究的な学びの高度化 メインサービス

2026年1月



■ 探究・校務改革支援サービスの概要

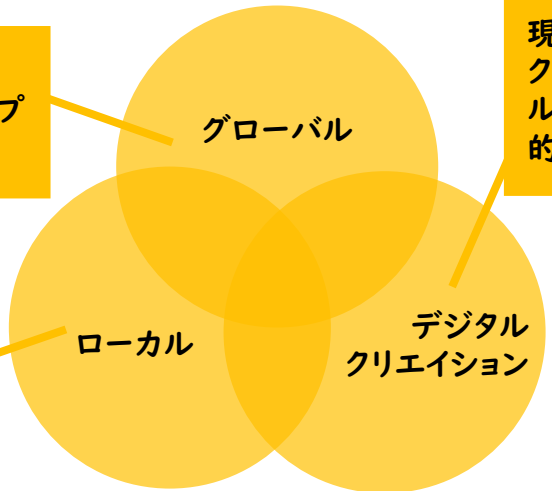
1. サービスの概要、特徴(カテゴリ1-1 探究的な学びの高度化 メインサービス)

(1) 導入によるメリット、類似サービスとの違い等

本サービスは、地方在住の学生向けに特化し、「グローバル」「ローカル」「デジタル」を掛け合わせたグローバルアントレプレナーシップ教育プログラムを提供。講演型から実践演習型まで学校のニーズに応じてカスタマイズをした上で提供しています。

MIT発の世界基準のアントレプレナーシップ教育メソッド

地域を軸として主体性とシビックプライドを育む実践的探究メソッド



現役クリエイターのクリエイティブスキルをもとにした実践的探究学習

- **世界基準の教育プログラム:** MIT (マサチューセッツ工科大学) の元客員研究員等と連携した「アントレプレナーシップ教育メソッド」を導入。通常、地方の学校単独では招聘困難な有識者の知見を、動画教材およびワークショップ形式で提供できる点が最大の強み。
- **実践的なデジタルスキル:** 現役のYouTuber/動画クリエイターが講師となり、単なる座学ではなく、実際に動画を企画・撮影・編集する「クリエイティブ活動」を通じた実践的な探究学習を提供。また、文科省任命アントレプレナーシップ推進大使に選ばれた代表大崎および弊社が持つ地方発アントレプレナーシップ教育のノウハウをもとにデジタルクリエイションを通じたアントレプレナーシップのノウハウをプログラム化。
- **地域密着とグローバル視点の融合:** 地域の課題をグローバルな視点で解決する「グローバル」な視座を育成し、生徒の主体性とシビックプライドを同時に醸成する。また単なる講座にとどまらず、学んだ内容を動画制作を通じて表現するアウトプット型教育を提供しています。

本サービスは、「企画 (Plan) → 制作 (Do) → 講評 (Check) → 改善 (Action)」というPBL (課題解決型学習) のサイクルを短期間で実践するワークショップ型のアントレプレナーシップ教育サービスです。教室内の座学では得られない「プロジェクト遂行能力」と「協働性」「デジタルスキル」を高める効果があります。



制作をしたショート動画やCM動画、自分の考えたアイデアや新たな仕事などをプレゼン

■ 探究・校務改革支援サービスの概要

1. サービスの概要、特徴(カテゴリ1-1 探究的な学びの高度化 メインサービス)

(2) 学習に関連する効果又は業務効率化・利便性等に関連する効果

【学習効果】: 生徒が「正解のない問い」に対して自ら考え、形にするプロセス(動画制作等)を経ることで、探究心、創造性、情報発信力が飛躍的に向上。
【業務効率化】: 高度な専門知識(起業家精神、動画編集、SNSマーケティング等)を要する授業準備を完全に学校ごとにパッケージ化して提供。教員がゼロから教材開発・外部講師調整を行う時間を大幅に削減し、本来の生徒指導や伴走に注力できる環境を創出しています。

(3) サービスの活用場面

- 1. 授業での活用**
「総合的な探究の時間」における地域課題解決プロジェクトや、「情報科」でのメディアリテラシー・情報モラル教育、「キャリア教育」としての起業家講演などで導入。座学だけでなく、社会とつながる実践的な学びを提供します。
- 2. 課外活動での活用**
「生徒会」による学校行事の広報戦略立案や、「部活動」における活動発信の動画制作などでも実施。動画制作やSNSマーケティングの実践を通じ、生徒自らが学校や地域の魅力を発信する「広報活動」のツールとしても機能しています。

(4) 1サービスあたりの標準販売価格

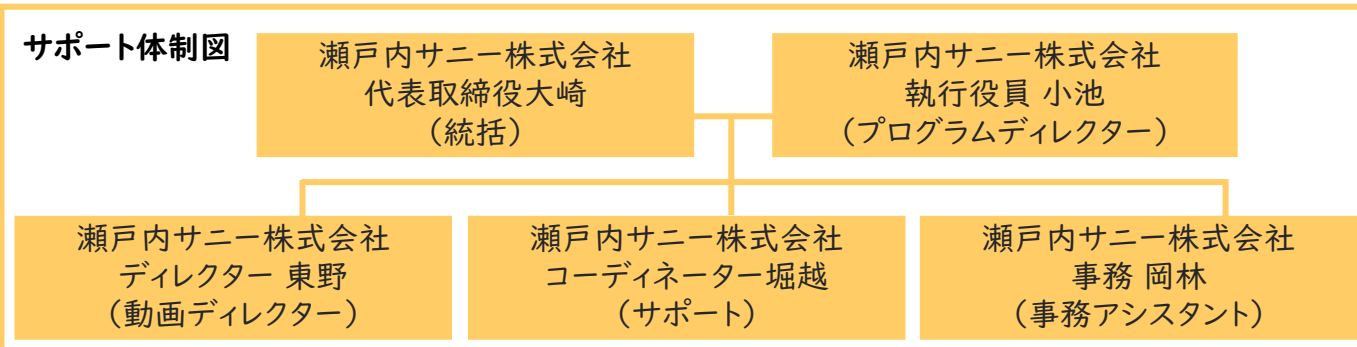
3,800,000円(税抜)
 - 学校別教育プログラムの開発とサポート
 - 探究プログラム実践に向けた教育ワークショップ等の提供
 - ワークショップ後のアフターフォロー及びサポートプログラム
 ※ご利用料金に通信費は含まれません。

サポート内容詳細

組織図をもとに本サービスのサポート体制を構築。導入から実施、事後検証まで専任スタッフが伴走し、先生方の業務負担を最小化する「ワンストップ・サポート」を提供します。

- 導入計画・カスタマイズ、学校ごとの教育目標やICT環境、授業時間数に応じ、最適なカリキュラムを設計。複雑なスケジュール調整や機材確認等の準備業務も弊社が主導します。
- 授業運営・教材提供 専門講師の派遣に加え、動画教材、ワークシート、指導案などの授業セットを一括提供。先生方は事前の教材作成や専門知識の習得をすることなく、当日の生徒指導に専念いただけます。
- 効果検証・報告支援 実施後の生徒アンケートの集計・分析から効果測定レポートの作成補助まで行い、校内報告や次年度計画への接続もサポートします。

2. サポート内容(サービス利用に際してのサポート体制等)



地方の児童生徒が抱える「体験・情報の格差」と、教職員の「多忙・専門性不足」という構造的課題を同時解決。ローカルとグローバルを掛け合わせた探究プログラムを学校別にパッケージ提供することで、教員の業務負担を削減しながら、地域を越えて活躍する「グローバル人材」を育成します。

児童生徒・教職員が抱える課題

【地方における「体験と情報の格差」】

地方の児童生徒は、都市部に比べて多様な職業人やロールモデル、最先端の価値観に直接触れる機会が圧倒的に不足しています。インターネットで情報は得られても、肌で感じる「リアルな体験」が乏しいため、「どうせ地方だから無理だ」「将来の選択肢が少ない」という無意識の諦め（マインドセットの固定化）が生じやすく、自身の可能性を狭めてしまっています。また、デジタルネイティブ世代でありながら、SNSや動画を単に消費する側に留まり、課題解決や価値創造のためにテクノロジーを「使いこなす」リテラシーや倫理観が未成熟な点も課題です。



【教職員の「専門性不足」と「リソースの限界」】

一方、教育現場では「探究学習」や「情報教育」の充実が求められていますが、地方の学校においては、起業家精神や高度なデジタルスキル（動画編集・SNS活用等）を指導できる専門人材が学内外に皆無であるケースがほとんどです。外部講師を招聘しようにも、地理的な制約や予算、人脈不足が壁となり、実現が困難です。加えて、教員は既存の校務や部活動指導で多忙を極めており、専門外の分野についてゼロから教材開発を行い、社会と連携した授業を設計・調整する時間的・精神的な余裕が全くないのが実情です。

サービスが果たす役割

【「地方×世界基準」で教育格差を埋めるハブ機能】

本サービスは、地方にいながらにして「世界基準（MIT流）の思考法」と「プロのクリエイター技術」を教室に届ける、教育のハブ（結節点）としての役割を果たします。物理的な距離を越えて、通常では出会えないロールモデルや最先端の学びを提供することで、生徒の「地方だからできない」という固定観念を打破。「地方でも世界と繋がり、面白いことができる」という主体性と、地域課題をグローバルな視点で解決する「グローバル」な視座を育成します。

【教員の「伴走者」として働き方改革を推進】

教員に対しては、高度な専門知識を要する「授業コンテンツ」と「運営ノウハウ」をパッケージ化して提供することで、授業準備にかかる業務負担を劇的に削減します。

教員が苦手とする「専門的指導」や「外部調整」を弊社が担うことで、教員は本来の職務である「生徒一人ひとりの内面に寄り添うファシリテーション」や「生活指導」に注力できる環境を創出します。これにより、地方の学校においても、教員のスキルやリソースに依存せず、持続可能で質の高い探究学習カリキュラムの定着を実現します。

■ 探究・校務改革支援補助金における活用場面

サービスの活用風景・授業の流れ

本事業では、発達段階に応じたアントレプレナーシップの授業を展開しました。また、学校ごとに専門的な授業内容と講師派遣をパッケージ化することで、教員は事前準備（講師選定・教材研究・教材作成・予習等）の負担なく、生徒の思考を深めるサポート役に徹することができました。また大きく分けると以下3つのステップで本サービスを実施しております。

1. 導入・マインドセット形成 (動画教材・講義)

【活用内容】:

世界最先端の知見に触れるインプット学習。動画教材としては、MIT（マサチューセッツ工科大学）の元客員研究員と弊社代表の対談動画を視聴。「地方から世界へ」というマインドセットの形成。また、アントレプレナーシップを「起業」に限定せず、「行動や失敗の大事さ」を行動指針として提示。

【教員の動き】:

進行役に専念。専門的な解説は動画と講師が行うため、教員の専門知識不足という課題を解消。



2. レクチャー&デジタルクリエイションワークショップ

【活用内容】:

プロのクリエイターによる実践的ノウハウの提供。「誰に(ターゲット)×何を(メッセージ)」届けるかを明確にする動画制作を通じたアントレプレナーシップワークショップを実施。現役クリエイターの視点から視聴者の心を掴むための具体的かつ論理的なテクニックを指導。

【教員の動き】:

机間巡視を行い、生徒のアイデア出しをサポート。専門的な技術指導をアウトソーシングすることで、質の高い指導を実現。



3. 振り返り・フィードバック (発表会、プレゼン)

【活用内容】:

成果発表とプロからの講評。相互評価: 制作した動画を全体で鑑賞し合い、良い点や改善点を言語化。講師総評: 「面白い・つまらない」だけでなく、「ターゲットに刺さっているか」「倫理的に問題ないか」という観点からプロがフィードバックを実施。学びを定着させた。

【教員の動き】:

教員自体もプロからの講評をもとに継続的なアントレプレナーシップ教育のノウハウ蓄積に繋げることに成功。



本事業においてサービスを導入した学校設置者数・学校等教育機関数

学校設置者数	12	学校等教育機関数	23校
--------	----	----------	-----

	学校設置者名	学校等教育機関名	所在地	学校種	学年	実施内容
1			兵庫県	中学校	1-3年	総合的な学習(探究)
2			兵庫県	高等学校	1-3年	放課後活動
3			岡山県	中学校	1-3年	総合的な学習(探究)
4			岡山県	高等学校	1-3年	探究
5			広島県	小学校	1-6年	情報
6			香川県	高等学校	1-3年	探究、放課後活動
7			広島県	中学校	1-3年	総合的な学習(探究)
8			広島県	高等学校	1-3年	探究
9			奈良県	高等学校	1-3年	探究
10			香川県	中学校	1-3年	総合的な学習(探究)
11			岡山県	高等学校	1-3年	授業外活動
12			岡山県	中学校	1-3年	総合的な学習(探究)、授業外活動
13			愛媛県	高等学校	1-3年	探究
14			香川県	高等学校	1-3年	情報

学校への営業連絡等の懸念や防止のため、学校側とのご調整に基づき一律マスキングしております

本事業においてサービスを導入した学校設置者数・学校等教育機関数

学校設置者数	12	学校等教育機関数	23校
--------	----	----------	-----

	学校設置者名	学校等教育機関名	所在地	学校種	学年	実施内容
15			山口県	高等学校	1-3年	探究、放課後活動
16			岡山県	高等学校	1-3年	探究
17			香川県	中学校	1-3年	総合的な学習(探究)
18			香川県	高等学校	1-3年	探究
19			高知県	中学校	1-3年	探究
20			高知県	高等学校	1-3年	探究、放課後活動
21			香川県	高等学校	1-3年	探究
22			香川県	高等学校	1-3年	放課後活動
23			香川県	中学校	1-3年	探究

学校への営業連絡等の懸念や防止のため、学校側とのご調整に基づき一律マスキングしております

【児童・生徒の探究学習】【教職員の業務効率化・省力化】等サービス活用による成果

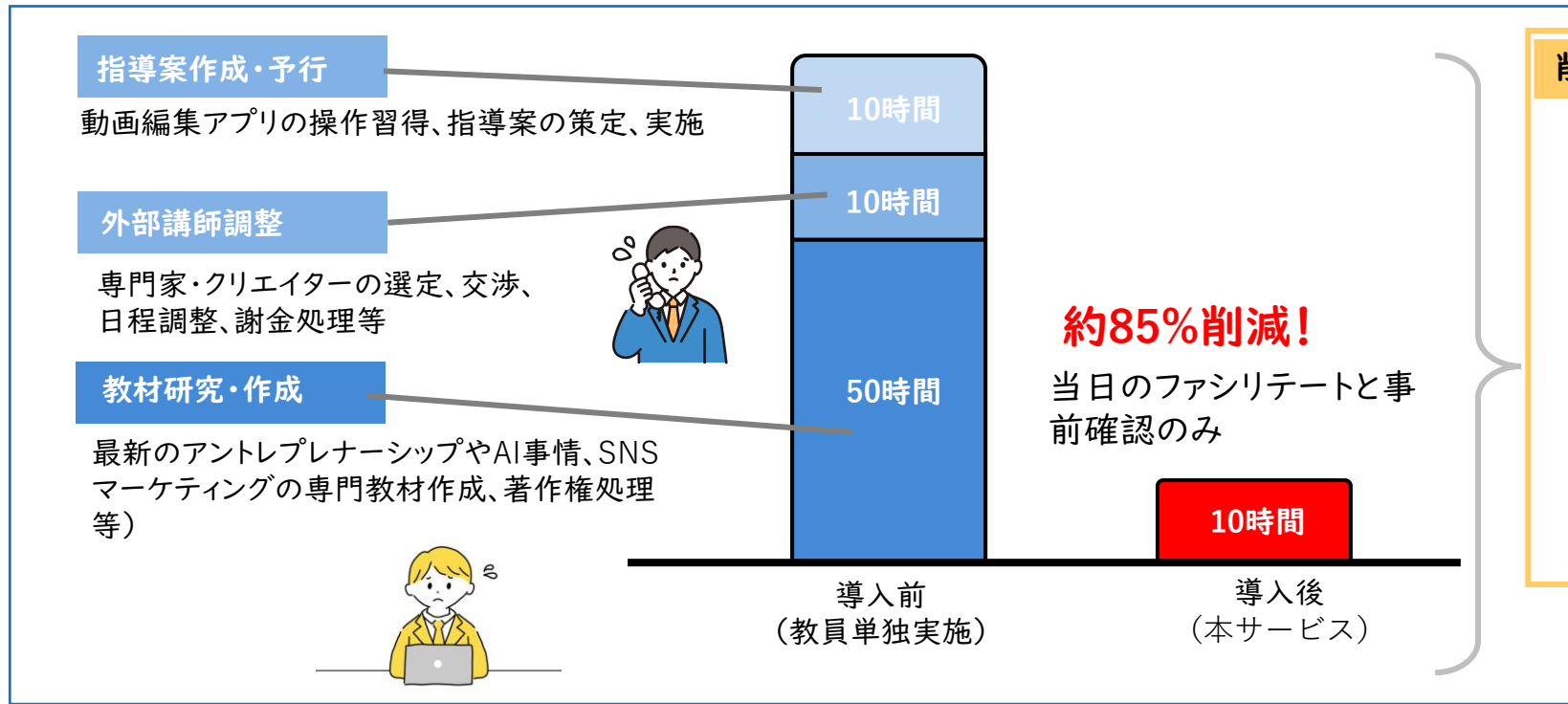
定量的効果検証

専門知見のアウトソーシングによる、教職員の「授業準備・運営時間」の大幅な削減

1. 削減効果の概算

【業務圧縮と「見えない時間」の削減】

本事業で導入した学校において、教員が単独で同等の「アントレプレナーシップ・デジタル教育」を実施した場合と比較し、1講座（準備～実施）あたり約60時間（導入学校での平均値）の業務時間削減を大幅に実現しました。（以下教員が本1講座を実施するにあたっての所要時間の導入前後比較図）



削減効果の価値換算（コストパフォーマンス）

約50時間の業務削減は、教員1人あたりの人件費に換算すると大きなコスト削減効果となります。

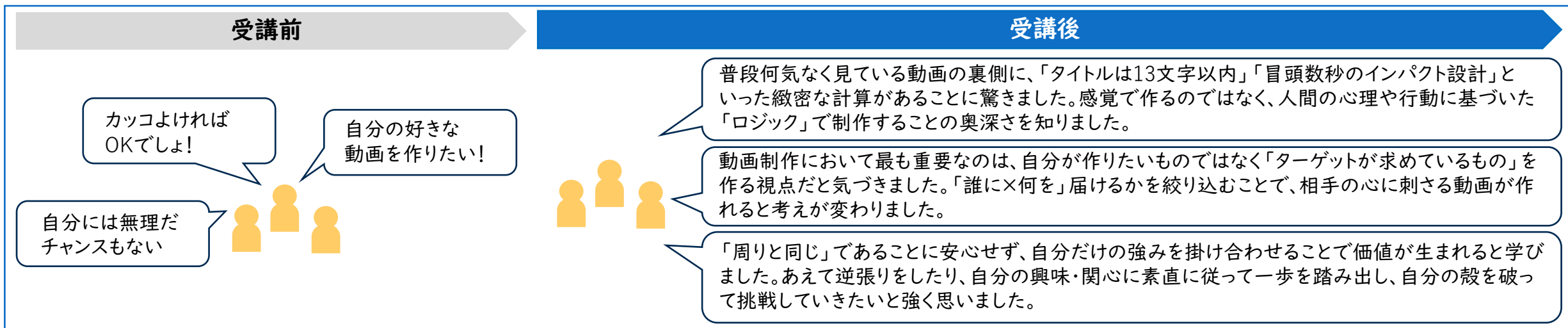
本事業は、通常であれば外部コンサルタントや専門業者へ個別に発注が必要な「カリキュラム開発」「講師派遣」「運営サポート」をワンパッケージで提供することで、「学校現場のリソース（時間・予算）」を最小限に抑えつつ、世界水準の教育プログラムを実装することを可能にしました。

【児童・生徒の探究学習】【教職員の業務効率化・省力化】等サービス活用による成果

定性的効果検証

アントレプレナーシップ（行動者精神）とマーケティング・デジタル思考の獲得

定性的効果検証として、本アントレプレナーシップ教育サービスを体験したことでアントレプレナーシップとマーケティング思考の獲得に成功。思考の変化が見られることが大きな成果だと考えられる。



失敗を恐れない「アントレプレナーシップ」の醸成

アンケート結果では、多くの生徒が「失敗への恐れ」よりも「行動することの価値」を上位に置くようになり、心理的なハードルを乗り越える傾向が確認。特に地方の高校生が抱きがち「自分には関係ない」という自己制限的な意識から、「自分だけの『掛け算』を見つければ戦える」という自己効力感の向上が見られ、予測不可能な社会を生き抜くためのたくましいマインドセットの形成が見受けられました。

自己満足を脱却する「マーケティング思考」の獲得

単なる動画編集スキルの習得に留まらず、「誰に(Target)×何を(Message)届けるか」というマーケティングの基本原則を徹底。「冒頭数秒のインパクト設計」や「企画の考え方」といった、プロのクリエイターが用いる論理的な技術を学ぶことで、生徒の制作姿勢は「作りたいものを作る(プロダクト・アウト)」から「相手が求める価値を届ける(マーケット・イン)」へと進化しました。この「他者視点」の獲得は、探究学習における課題解決能力の向上にも直結する成果です。

児童253名、生徒118人にアンケート実施(抜粋)

■ 探究・校務改革支援サービスを活用した児童・生徒・教職員等のコメント感想等

コメント	対象者(講座内容)
今日のことで分かったことがスマホの使い方、デメリットやいいところがあり、4秒ルールを使って炎上には気を付けたい。倫理の大事さにも気づきたい。	児童(SNS・AI時代のデジタルリテラシー講座)
スマホは、人を傷つけることもあるから気を付けて使わないといけない。人の気持ちを考え、4秒ルールを守る。	児童(SNS・AI時代のデジタルリテラシー講座)
「誰に×何を」届けるかというターゲット設定の重要性を学びました。年齢層や求めているものを絞り込むことで、逆にメッセージが伝わりやすくなるという広報の本質に気づき、今後の活動に活かしたいです。	高校生(SNSマーケ・デジタルクリエイション講座)
動画制作は感性だけでなく、「人間が瞬時に認識できるのは13文字まで」「冒頭数秒のインパクト」といった論理的な技術に支えられていると知りました。普段見ている動画への視点が劇的に変わりました。	高校生(SNSマーケ・デジタルクリエイション講座)
実際にスマートフォンでショート動画を企画・編集するワークを通じ、頭で考えるだけでなく「形にする」難しさと楽しさを体感しました。グループでアイデアを出し合い、協働するプロセスが非常に有意義でした。	高校生(アントレプレナーシップ講座)
SNSは強力な発信ツールである反面、使い方を誤ると取り返しがつかないリスクも学びました。発信者としての責任を持ち、応援を集めるためのポジティブで戦略的な活用を心がけたいと思います。	児童(SNS・AI時代のデジタルリテラシー講座)
海外に挑戦することで「自分の殻を一気に破る」や「あえて逆張りをする」というアドバイスを受け、自分だけの強み(掛け算)を見つけたいと強く思いました。周りと同じではなく、自分らしい価値観で挑戦していく意欲が湧きました。	高校生(アントレプレナーシップ講座)
学んだ動画制作ノウハウや広報戦略は、部活動の勧誘やキッチンカーの運営、オープンスクールでの学校紹介など、身近な活動にすぐに応用できると感じました。相手目線に立つことの重要性を実践していきます。	高校生(SNSマーケ・デジタルクリエイション講座)
しっかり考えていました。自宅に帰って日記に書いてくれた児童は、お家でも話ができていたようで、授業の内容が保護者にも伝わったようです。AIや自動運転など新たなテクノロジーにも感動していました。	教職員(小学校)
「通常、教員だけでは伝えきれない最新のWEB事情やキャリアの考え方を、生徒に響く言葉で伝えてもらえた。生徒の目の輝きが違った。」	教職員(高校)
普段の基礎教科では手を挙げない、積極性がないと認識していた生徒がキャリア教育では非常に積極的に手を挙げている積極性があること知ることができた。また考えていることもユニークで教員としても新たな気づきがありました。	教職員(中学)

児童253名、生徒118人、教員5名に実施

導入当初は学校ごとの「ICT環境の差異」や「個別カスタマイズ」への対応に工数を要しました。これらの課題を「運用フローの定型化」と「教材のモジュール化」により解消し、持続可能で拡張性の高い提供体制を構築して改善をしていく予定です。

直面した課題

導入時の課題

ICT環境とセキュリティの壁 学校によってGIGA端末のOS (iPad、Chromebook、Windows) や通信環境、フィルタリング強度が全く異なり、動画編集アプリの選定や事前の動作検証、セキュリティ解除申請のサポートなどに想定以上の人的リソースと時間を要しました。

実施中の課題

カリキュラム調整のリードタイム 「50分完結にしたい」「情報科で使いたい」「総合的な探究の時間で使いたい」など学校ごとの要望が多様で、その都度スライドや構成をゼロベースで微調整(再編集)していたため、導入決定から実施までの準備工数が肥大化しました。

新たに顕在化した課題

講師リソースの拡張性(スケーラビリティ) 授業の満足度は非常に高いが、「プロのクリエイター(YouTuber)」が登壇することへの依存度が高く、今後数十校、数百校へと展開規模を拡大する際、講師のスケジュール確保がボトルネックとなり得ることが判明しました。

解決するための改善策

環境確認のパッケージ化

事前チェックシートの運用 「ICT環境チェックシート」を整備し、OS・回線・アプリ制限の状況を初回ヒアリングで即座にパターン分けするフローを構築。また、端末依存の少ないブラウザ完結型ツールの活用推奨など、環境に左右されない運用モデルで改善できると考えています。

教材のモジュール(部品)化

カスタマイズの効率化 教材とワークショップを「マインドセット」「企画」「撮影」「編集」「デジタル倫理」などのブロック(モジュール)に分割。学校のコマ数や課題感に合わせて、ブロックをレゴのように組み合わせるだけで最適化できる「セミオーダー方式」への移行で解決できると考えています。

教材のモジュール(部品)化

講師非依存モデルの構築 メイン講師が不在でも質の高い授業ができるよう、「動画教材」のカバー範囲を広げるとともに、現場の先生が進行役を担える「詳細な進行台本(ガイド)」を開発。誰が回しても一定の成果が出る仕組みにより、サービスのスケーラビリティを高めることで解決できると考えております。

■会社概要

社名	瀬戸内サニー株式会社
代表	大崎龍史
設立年月	2018年1月
本社	香川県高松市
資本金等	10,500,000円
売上高等	非公開
従業員数	9名(業務委託&インターン含む)
事業内容	<p>同社が展開する教育メディア事業が、Google社による日本を代表する社会的YouTubeチャンネル100選に選出。また、文科省任命のアントレプレナーシップ推進大使に代表大崎が就任。</p> <p>戦略性・ブランド力・マーケティング力を生かし、企業や自治体、教育機関へのデジタルマーケティング事業や人材開発事業を展開。海外事業として中四国の高校生を海外留学派遣する「行き先は、転機だ!サニー留学」も展開中。また教員免許や教育業界での経験がある社員も多く、そのスキルを活かし講師後援事業も展開しています。</p>

■お問い合わせ窓口

担当:小池香苗

電話:090-9001-6020

Mail:kanae.koike@setouchi-sunny.com